平成15（2003）年12月6日（土）

上私部遺跡（かみきさべ）・有池遺跡（ありいけ）（その2・3）現地公開資料

財団法人　大阪府文化財センター

財団法人大阪府文化財センターは、国土交通省・日本道路公団の委託を受けて、第二京阪道路（北大阪道路）の建設にともなう発掘調査を実施しています。

平成８年度より、遺跡の有無やひろがりを知るため、細長い調査地を道路用地内に設定し、確認調査をおこなってきました。その結果、上私部遺跡、有池遺跡のひろがりが確認されました。大阪府教育委員会の指導のもと、平成14年度より有池遺跡の本格的な発掘調査を開始し、平成15年度には上私部遺跡および有池遺跡（その２）、有池遺跡（その３）の発掘調査を実施しています。

上私部遺跡は青山住宅の南側にひろがります。ここでは、古墳時代の中頃（５世紀）から飛鳥時代の初め（７世紀の初め）にかけての集落がみつかりました。この場所は、洪水の跡とみられるまとまった砂や小石の層があまりみられないことから、比較的安定した土地であったことがうかがえます。古墳時代から、人々はこうした住みやすい場所を選んで集落をいとなんできたようです。周辺には集落とほぼ同じ時期の、倉治古墳群や寺古墳群というお墓があり、今回みつかった集落との関連が考えられます。

有池遺跡は、上私部遺跡の東側、旧青山グラウンドから免除川の南側にかけてひろがります。複数の谷と水田のほか、谷にはさまれた高い場所では鎌倉時代から室町時代に営まれた集落がみつかりました。水田は、鎌倉時代には地形にそった区画をもちますが、室町時代には東西南北方向に区画をもつ水田に整備されます。集落では、地面に穴を掘って柱を立てる掘立柱建物という建物や井戸がみつかりました。なかでも、有池遺跡（その２）では方形にめぐる濠や溝に囲まれた屋敷地がみつかり、集落の中心であったと考えられます。南北朝時代以降、集落をまきこんでつづいた戦乱が、このような建物配置の形をうんだと考えられています。

このように、これまでの調査で、古墳時代から室町時代にかけて、交野山のふもとで営まれた人々の生活の一端が明らかになりました。建物の跡や使われた器、道具を見ていただき、約1500年前から400年前にかけてこの地に住んだ人々に思いをはせていただけましたら幸いです。これからの調査により、この地でくりひろげられた人々の活動がいっそう明らかになることが期待されます。今後とも、ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

手前より、有池遺跡、上私部遺跡とスタードームをのぞむ（北東から）

上私部遺跡

上私部遺跡では、古墳時代の中頃から飛鳥時代にかけての大きな集落を発見しました。この集落には、地面を掘り窪めて柱を立てて作る竪穴住居という建物と、地面に穴を掘りそこに柱を立てて作る掘立柱建物という２種類の建物があります。竪穴住居は住居に、掘立柱建物は住居や倉庫に使われていたと考えられています。

この集落では、古墳時代の終わり頃から飛鳥時代にかけて、建物が竪穴住居から次第に掘立柱建物に変わっていった様子がみられます。今回はその一部をみつけただけですが、これからの調査で集落の全体の姿が明らかになっていくことと思います。

2調査区（東から）

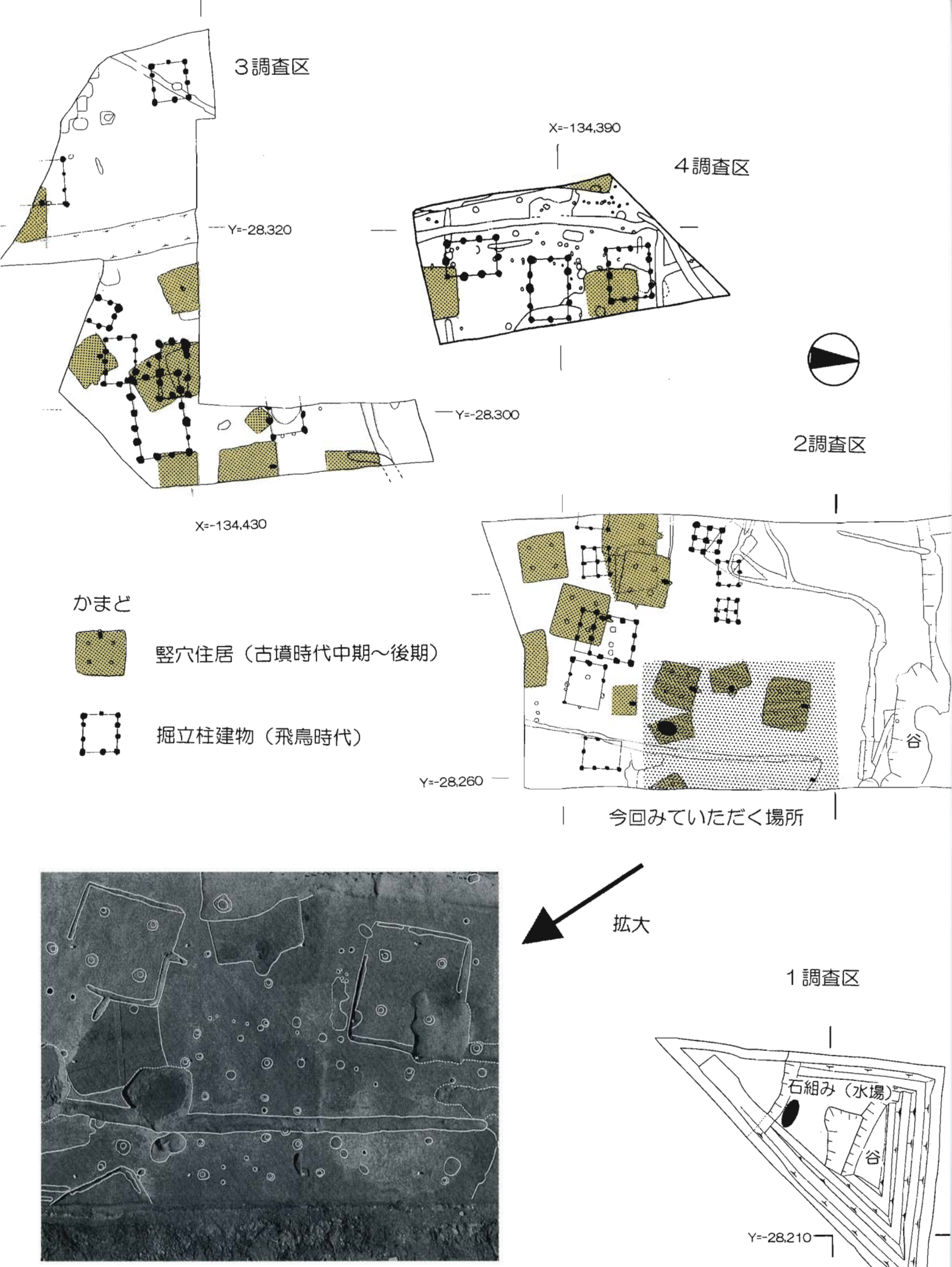
掘立柱建物（飛鳥時代）

3調査区（北から）

竪穴住居（古墳時代）

遺物出土状況

竪穴住居に作り付けられたかまど



上私部遺跡１～４調査区（S=1/500）

上私部遺跡、有池遺跡（その２）、有池遺跡（その３）現地公開
現地への経路および案内図

平成 14 年度調査終了部分

平成 15 年度調査地

誘導員

誘導員

⑥出口有池遺跡（その２）

④

⑤遺物展示場
（現場事務所）

③

①集合場所

有池遺跡（その３）

誘導員

②

上私部遺跡

至京阪　交野市駅

300m

谷（飛鳥時代～室町時代

有池遺跡（その

谷（古墳時代～室町時代

有池遺跡（その３）

鎌倉時代の集落と
鎌倉～室町時代の水田

谷（古墳時代？～室町時代）

古墳時代～飛鳥時代の集落

上私部遺跡１～４調査区

100m

私部南遺跡

周辺の遺跡
（「交野市文化財分布地図（改定版）」

500m

上私部遺跡・有池遺跡（その２・３）全体図

有池遺跡平成１４年度調査地

鎌倉時代の集落と
鎌倉～室町時代の水田

X=-134,150

有池遺跡（その2）１調査区

Y=-28,000

鎌倉～室町時代の集落
（濠がめぐる屋敷地）

3）2調査区

1調査区

清水谷古墳
東倉治遺跡
倉治古墳群
倉治遺跡
廃安養寺
有池遺跡
廃開元寺
神宮寺遺跡
上私部遺跡
尾上遺跡
大谷北窯跡
寺村北遺跡
京の山古墳
大谷窯跡
やぶ古墳
今井遺跡
寺村遺跡
交野東車塚古墳（府指定）
大畑古墳
山添家住宅（重文）
車塚古墳群
寺古墳群
須弥寺遺跡
森遺跡
森古墳群
鍋塚古墳

有池遺跡（その2）

これまでの調査で、中世までさかのぼる集落や水田跡などを検出しています。特に今回見ていただく1調査区では、直線的な溝で周囲を囲った中に、複数の建物が建てられた屋敷地が、いくつも連なる様子がみてとれます。屋敷地1は幅2.5m、深さ1m弱の濠で囲まれた中に、掘立柱建物や井戸、石敷き遺構が整然と配置されたもので、この集落の核をなすものだったと考えられます。

これらの時期は13～16世紀（鎌倉時代～室町時代）とみられ、中世におけるこのあたりの集落の様子をうかがうことができます。

石組井戸

濠が設けられる前に掘られた井戸で、壁の部分に石を積んで、壁が崩れるのを防ぐ工夫がしてあります。

石敷き遺構

浅い掘り込みの中に、円形に、上面をそろえるようにして石が並べられていました。

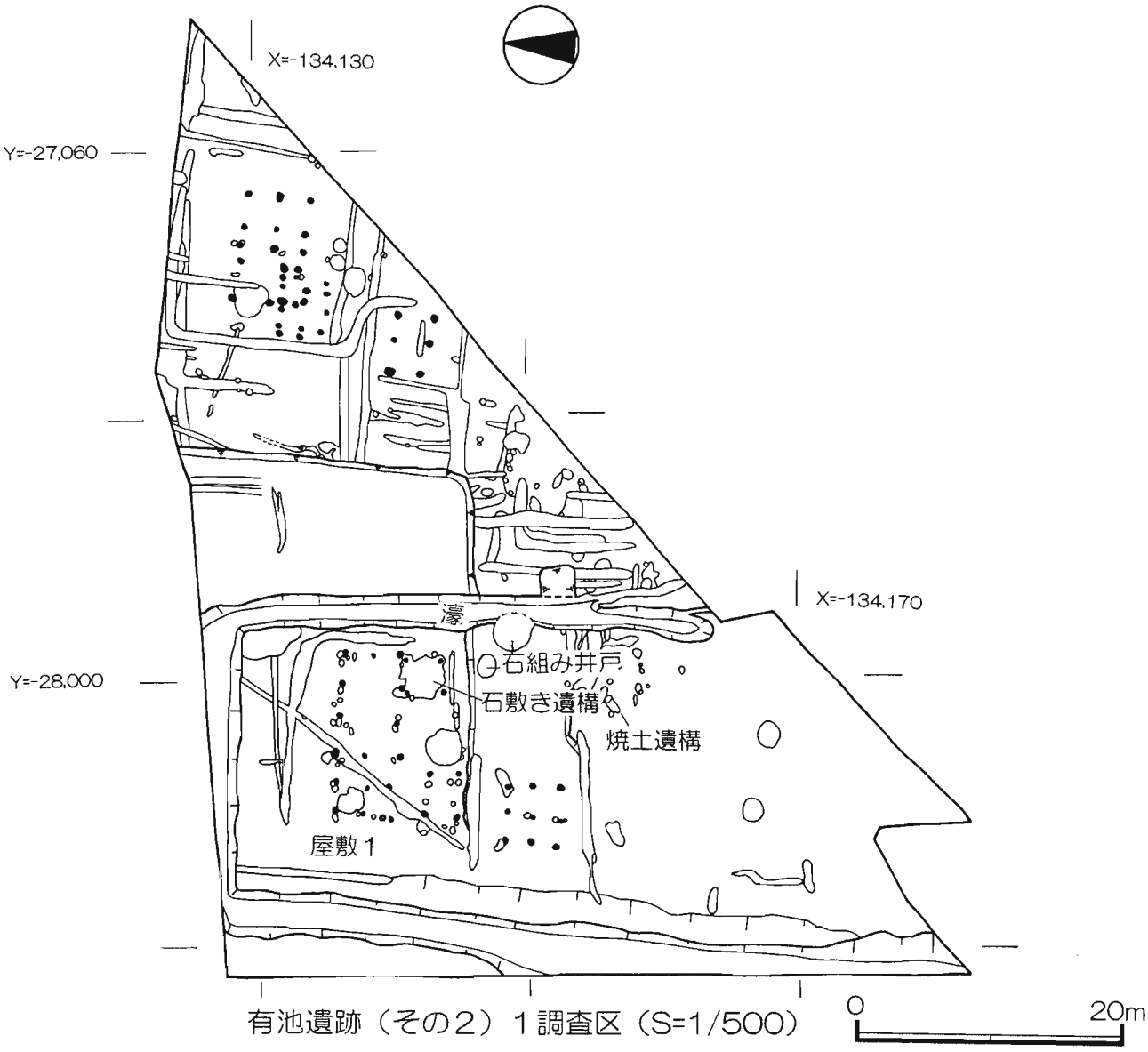
浅い掘り込みの四隅に柱穴がみられることから、覆屋が建っていたとみられます。

屋敷地の周囲をめぐる濠

幅2.5m、深さ1m弱の規模です。濠の底は平らな形状をしており、幅は1mほどです。濠の埋土の様子から、濠が機能している間は水がよどんだ状態であったと考えられ、屋敷地を囲うだけでなく、水溜めとしての役割もあったと考えられます。

焼土遺構

およそ1.5m×2.5mの長楕円形の範囲に、真っ赤に焼けた土や炭が約20cmの厚さで堆積している部分がありました。それを取り除くと、方形に石を並べた施設の一部とみられるものがみつかったことから、かまどだったのではないかと考えています。



有池遺跡（その2）1調査区（S=1/500）

1調査区（西から）

有池遺跡（その3）

１調査区とした青山グラウンドの下からは、ふたつの谷と、谷にはさまれた高い場所にひろがる鎌倉時代の集落がみつかりました。谷では、鎌倉時代から室町時代にかけて水田がいとなまれ、谷の中でも集落から一段下がった場所では水場とみられる石組みがみつかりました。鎌倉時代の集落では、多くの柱の穴や溝、井戸のほか、方形竪穴建物という、方形の穴の落ち際に小さな柱の穴がめぐるものがあり、倉庫の可能性が考えられます。また、日常使う器や煮炊きする釜も多くみつかり、鎌倉時代の人々の生活のようすがうかがえます。

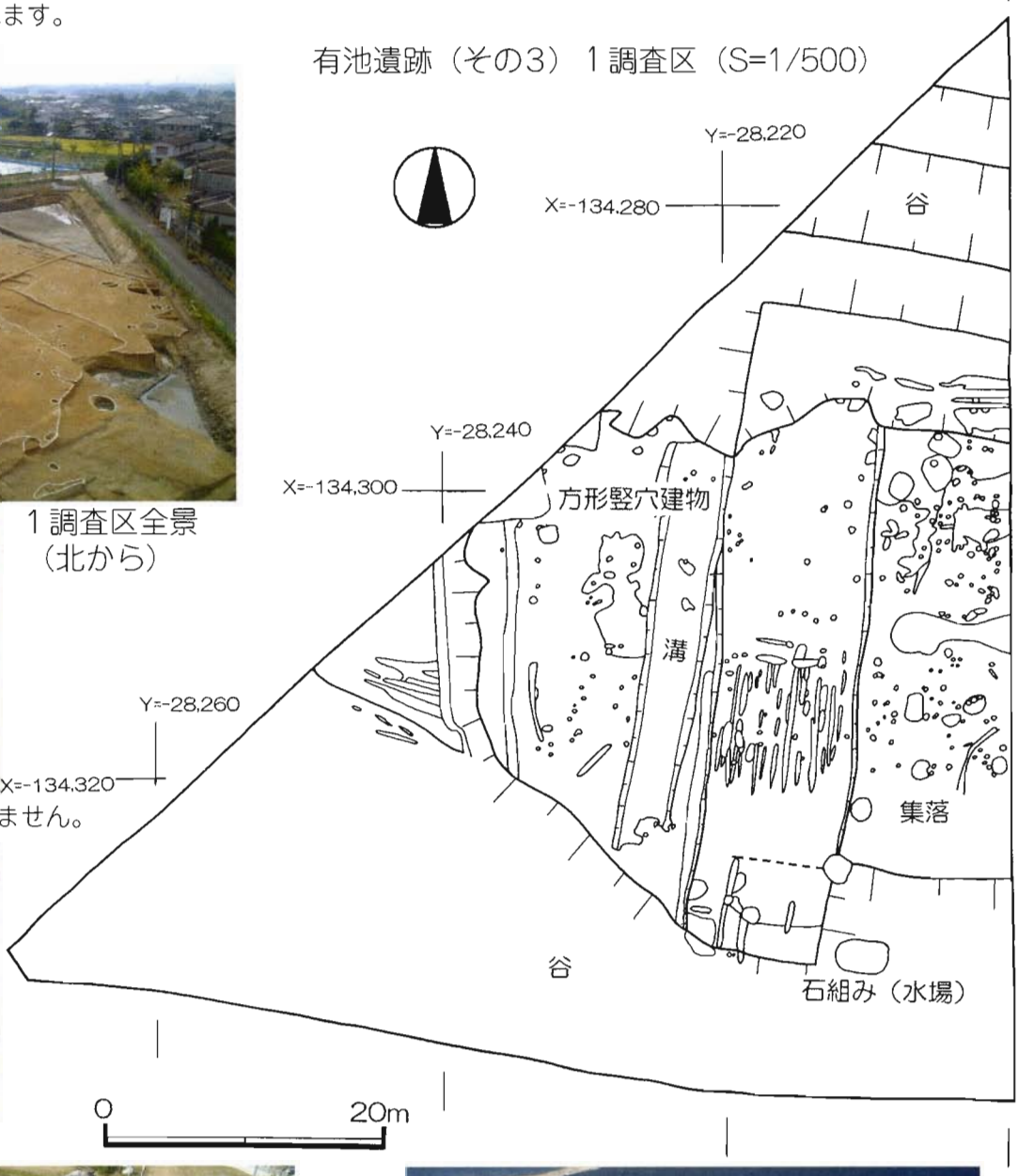
２調査区からは１調査区からつづく谷がみつかりました。谷の落ち際には、木製の容器や板材を杭でとめる施設がみられ、これも水場とみられます。

１調査区全景
（北から）

方形竪穴建物　倉庫かもしれません。

石組み　水場とみられます。

有池遺跡（その3）１調査区（S=1/500）



２調査区全景（南から）

木製の容器や板材を杭でとめています。
水場とみられます。